

2026 年 9 月 15 日

報道機関 各位

学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想 －ロードマップ 2026－（文部科学省）に 長崎大学の「BSL-4 施設を中核とした感染症研究拠点の形成」が掲載

このたび、本学高度感染症研究センターが推進する「BSL-4 施設を中核とした感染症研究拠点の形成」事業が、文部科学省の「学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想－ロードマップ 2026－」（以下、「ロードマップ 2026」）に掲載されました。

学術研究の大型プロジェクト（以下、「大型プロジェクト」）とは、最先端の技術や知識を結集して人類未踏の研究課題に挑み、世界の学術研究を先導する画期的な成果の創出を目指す研究プロジェクトです。これまでも、「スーパーカミオカンデ」によるニュートリノ振動の発見や、「B ファクトリー実験」による小林・益川理論の検証など、ノーベル賞受賞につながった世界的研究成果を生み出す研究基盤が大型プロジェクトとして推進されてきました。

こうした大型プロジェクトは、学問動向や社会的要請、国際情勢の変化を反映し、国の学術政策の基本として位置づけられたプロジェクトであり、長期間にわたり多額の経費を要することから、広く社会や国民の理解と支持を得たうえで、戦略的・計画的に推進する必要があります。そのため策定されるのが、大型プロジェクトの優先度を示すロードマップです。ロードマップは予算措置を保証するものではありませんが、関連施策を推進する上で重要な指針として位置付けられています。

今回の「ロードマップ 2026」では、全国の大学などから掲載申請のあった 31 件の研究計画のうち、12 件が掲載されました。その中のひとつとして、本学の「BSL-4 施設を中核とした感染症研究拠点の形成」事業が掲載されたことは、本事業が我が国の感染症研究の発展や研究基盤の強化、国際競争力の向上に資する重要な取り組みとして評価され、将来的に世界の学術フロンティアを先導することが期待される大型プロジェクトの一つとして位置付けられたことを示すものです。

また、本事業は過去のロードマップにも継続して掲載されており、今回の掲載は、2014 年、2017（参考掲載）、2020 年、2023 年の掲載に続くものです。これは、本学の BSL-4 施設が多様な感染症や将来のパンデミックに総合的に対応し得る研究拠点として、継続的に高く評価されていることを示しています。また、「ロードマップ 2026」において基礎医学の研究分野で唯一の掲載となったことは、本学が推進する感染症研究の学術的意義と将来性が高く評価された結果であると受け止めています。

本学は、世界トップレベルの研究拠点形成及び当該分野で世界をリードする人材の育成により、感染症の病態解明、診断・治療法の確立、有効な予防法の構築による国民の安全・安心の確保、さらには感染症発生から 100 日以内のワクチン等の供給を目指す国際目標「100 日ミッション」への貢献も視野に、WHO 等による国際的な感染症管理体制への貢献を通じ、世界の保健向上に寄与してまいります。

【参考情報】

学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想 ロードマップの策定

ーロードマップ 2026ー（文部科学省ホームページ）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1423056_00037.htm



令和4年度 「ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点の形成事業」長崎大学、ワクチン開発拠点に～パンデミック発生時の100日でのワクチン供給を目指して～

<https://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/guidance/kouhou/press/pdf/20220826-1.pdf>



【本リリースに関するお問い合わせ先】

長崎大学研究推進部感染症研究支援企画課 森田

電話番号：095-800-4300 Mail：bsl4_jimu@ml.nagasaki-u.ac.jp

計画名称 BSL-4施設を中核とした感染症研究拠点の形成

実施主体
長崎大学

計画概要

特定一種病原体等に関する世界トップレベルの研究拠点形成及び当該分野で世界をリードする人材の育成により、当該病原体等による感染症の病態解明、診断・治療法の確立、有効な予防法の構築による国民の安全・安心の確保、国際的な感染症対応への貢献を通じ、世界の保健向上に資することを目標とする。

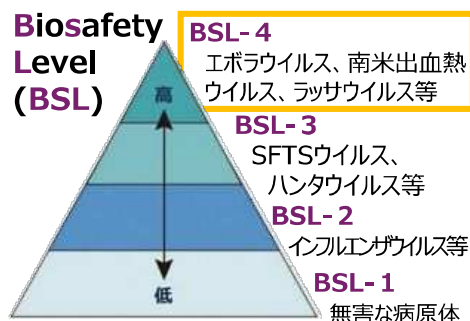
本提案の中核となる本学BSL-4施設は、令和7年1月に厚生労働大臣から特定一種病原体等所持施設の指定を受けた。

引き続き、本施設の検証・訓練等を進めつつ特定一種病原体等の搬入後、本格稼働に移行し、上記目標を達成する。

厚生労働大臣による指定※を経て、BSL-4施設を「整備」から「本格稼働」へ

※本施設は2025年1月に厚生労働大臣から特定一種病原体等所持施設の指定を受けた。

社会的必要性



- 一種病原体（BSL-4に分類）による重篤な感染症への対応
- 未知・新興感染症への備え

そのためにはBSL-4施設が必要だが・・・

学術研究に利用可能なBSL-4施設は日本国内に存在しない

世界トップレベルの研究拠点へ



2021年
施設竣工

2025年
大臣指定

一種病原体
搬入後
本格稼働

国内初のスーツ型BSL-4施設※を
安全に運用し、最先端研究を推進

世界最高水準の研究人材・施設管理人材を育成

※研究者が陽圧式防護スーツを着用し、危険なウイルスを安全に研究するための施設

研究成果を社会へ還元

わが国の主要な感染症研究機関が総力を結集

世界トップレベルの研究成果の創出
国内外研究者との共同利用・共同研究
世界最高水準の教育と人材育成
他分野への波及効果

病原体研究



病態解明



診断法開発



ワクチン
治療薬



国民の安全・安心の確保、
世界の感染症対策の向上に貢献

＜所要経費（百万円）＞ 総額：9,950（光熱水費：1,170、人件費：3,120、保守・メンテナンス経費：4,510、その他運営費：1,150）

年次計画	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目
施設及び設備の整備	年次点検	配管等の定期交換	年次点検	年次点検	年次点検	年次点検	配管等の定期交換	年次点検	年次点検	年次点検
施設安全管理・運営体制整備	施設安全管理・運営体制整備の見直し	運営体制整備とマニュアル改訂案完成	施設安全管理・運営体制整備の見直し	施設安全管理・運営体制整備の見直し	施設安全管理・運営体制整備の見直し	施設安全管理・運営体制整備の見直し	マニュアル改訂案完成	施設安全管理・運営体制整備の見直し	施設安全管理・運営体制整備の見直し	施設安全管理・運営体制整備の見直し
研究及び人材育成	BSL-2、3の共同研究20件	BSL-2、3の共同研究20件	BSL-4共同研究5件、論文25報	BSL-4共同研究5件、論文25報	BSL-4共同研究5件、論文25報	BSL-4共同研究10件、論文30報	BSL-4共同研究10件、論文30報	BSL-4共同研究10件、論文30報	BSL-4共同研究10件、論文30報	BSL-4共同研究10件、論文30報